

大田高校 P T A 広報



泰山木

Taisanboku

第93号

平成24年 3月 1日

島根県立大田高等学校
P T A 総務委員会



本校の人権・同和教育の取組から

校長 岩井 元康

本校では、人権・同和教育の一環として、人権問題をテーマとしたロングホームルーム（LHR）と略記・学級で行う教育活動の一つ）や全校生徒対象の講演会などに取り組んでいます。この取組は人権問題を見抜く力を高めたり、主体的に問題を解決しようとする態度を育てたりすることをねらいとしています。ここでは、LHRの時間に取り上げた内容を、一年生の取組を中心にその一部を紹介いたします。一年生では、六月に「対立・めめごとを解決する力を伸ばそう」というテーマで、アサーティブネス（相手の気持ちを考えながら攻撃的にならないように自分の気持ちを伝える）の理解を目的の一つとしてLHRを行いました。具体的には、友人が約束の時間に三十分も遅刻してきたのに謝らず、悪びれない態度をとった場合どのように応じるかを次の三つのパターンに分け、それぞれの応じ方について自分の考え（意見）を発表しました。

①「しぶしぶ型」相手に言われるままで反論なし
②「決裂型」相手の気持ちを考えないで反論する
③「円満型」相手の気持ちを考えながら言いたいことはきちんと言う（これがアサーティブネス）

LHR後の感想文では、③を考えるのが結構大変だったという意見が多い中で、「相手に嫌われないよう、つついという人に合わせてしまいがちだけど、今日学んだアサーティブな考え方で、自分も相手も大切にしながら、意見が言えるようになりたい」「もし自分が遅れてくる友人の側だったら、アサーティブな言い方をしてくれた方がそのあとも普通でいられるし反省もするので、アサーティブな答え方は大切だと思った」という感想もありました。

アサーティブネスは、特に女性の人権を守ったり人種差別をなくすために、あるいは子どもを虐待から守る取組などで実践されてきている考え方です。今回の取組で、アサーティブネスへの理解が一步進んだように思います。

その他、二年生や三年生でも様々な取組をしていますが、その中で三年生は二学期に「差別のない社会の実現をめざして」というテーマでグループディスカッションをしました。後の感想で、「差別を見かけたら止めたいし、自分は絶対に差別する側にまわらない」というものがありました。本校での学びが今後、少しでも生かされれば幸いです。

最後に、三年生の皆さん卒業おめでとう。そして、保護者の皆様方のこれまでのご理解とご協力に感謝しますとともに、大田高校の発展のために今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

贈る言葉

保護者より

師を超える

和田 善明

大田高校に入学して早三年、卒業の時を迎えました。この間、いろいろなことを学び、大きく成長してきました。禅宗では、弟子（生徒）を育てることを重要視しています。一人前になることは、師（先生）と同じではダメなのです。師を超えるてはならないという教えがあります。

小中学校の時は、何事においても親の力量が勝っていました。高校になってから少しずつ親を超えることが増えてきました。親としては悔しいながらも、うれしいこともあります。

高校で学んだことを、自分のものとして身につけ、さらに飛躍してほしいと願っています。それが、先生や友人など、教えを受けた人たちに対する恩返しです。

卒業おめでとう。一層の精進を祈ります。

つなぐ努力

山尾 規子

良い縁は繋ぐ努力をしないと繋いで

いけない。悪い縁は切っても切ってもついてくる。それがくされ縁：

これまで十八年余り、沢山の方々に支えられてきました。地域の方々、保育園や学校の先生方、友達とその御家族の皆様。今まで前を向いて歩んできたのは、皆様との良い縁があったからこそ。感謝の気持ちで一杯なのは、あなたも同じだと思っています。

いよいよ春から新しいステージの始まりです。新たな地で新しい縁が待っています。どうかこれからも、良い縁を繋ぐ努力をして下さい。それがまた、いつか来る次のステージでの大きな力となる事でしょう。謙虚な気持ちで、笑顔忘れず、人にかわいがられる（チャンスを与えてもらえる）人になり、自分の可能性をどんどん広げて下さい。そんなあなたの姿を見るのを楽しみにしています。卒業おめでとう。

岐路

有光 高司

三年前、子供に無理をさせてしまったと思った事があった。高校受験前の成績では、少し点数が足りない、当時の担任からは、心配の言葉が出ました。それでも親としては、ぜひ大田高校へ行つてほしくて、子供には「勉強頑張れ」と言うだけでした。不安が当り、一年と二年の一学期の成績は、クラスの中でビリ競いでした。それが、二年の二学期頃から、あるきっかけて

それまでが嘘の様に成績が伸び始め、それが本人の自信にも繋がった様です。

これからは、大学生、そして社会人として独り立ちして行かなければなりません。人生はチョットしたきっかけで、良い方にも悪い方にも流れて行きます。それを選ぶのはあなた自身です。悔いのない人生を歩んで行つて下さい。三年間ほんとうに頑張りました。

穴は深く掘れ。 直径は自ずから広がる

川村 直孝

卒業おめでとう。高校生になったのがつい先日のように思い起こされます。体を動かすのが好きで、小学一年から始めた野球も十二年間、よく頑張りました。目標の甲子園出場は出来なかったけれど、得たものは多かったと思います。監督や指導して頂いた先輩方、そして何よりも、苦楽を共にしたチームメイトは一生の財産となるでしょう。これからも、人と人とのつながりを大切に、物事に対し深く突き詰めるという事を続けてほしいと思います。「穴は深く掘れ。直径は自ずから広がる」という言葉を君に送ります。「深く掘る」というのは、物事を突き詰めて行くという事です。どんな仕事であっても、その一事において、徹底してプロになるということです。学業においてもまた然ります。

突き詰める事は、直接的に直径を広げることにはならないけれども、深く掘れば掘るほど、返ってくるものは大きくになります。

目の前の学業や仕事に一所懸命に取り組むことが、悔いのない人生を創造していくのだと確信しています。今後の活躍に期待しています。

たくさんの 感動をありがとう

安藤 裕美

大田高校に入学して少したった頃、「吹奏楽部に入ったよ。」の言葉に驚かされました。水泳で培った体力はあるけれど、チャレンジャーだなあ！

それから毎日、休みなく練習に励みました。弱音を吐くことも勉強を疎かにすることもなく頑張る姿に、よく頑張るなあと思われないかと、「これが当たり前、と思わないと！」と答えが返ってきました。先輩や友達に支えられて必死で頑張っていたのです。そして迎えた県大会や中国大会では、心が震えるような素晴らしい演奏を聴かせてくれました。最後の定期演奏会での演奏や、やりきったという思いがあふれた涙にも感動しました。

先生方をはじめ、多くの方々に支えていただいて卒業の日を迎えることができました。本当に心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

三年生からの メッセージ

高校生活を振り返って

一組 吉田みなみ

私は高校生活を振り返り、大田高校で三年間を過ごすことができ、本当に良かったと思います。嬉しいことや楽しいことも沢山ありましたが、悩んだこともありました。しかしそのような時に側について話を聞いてくださる先生方や友達、そして家族がいたからこそ私は大田高校での三年間を良い思い出とすることが出来ました。支えて下さった方への感謝を忘れず次へと進んで行きます。

二組 春日沙織

私の高校生活三年間は、とても充実したものでした。部活動ではたくさんのボランティア活動に参加することによってたくさんの人と出会え成長することができました。また、友だちと毎日楽しい話をしたり、笑い合ったりして過ごし、一生付き合っていきたいと思える友達と出会うことができました。私の高校生活を支えて下さった方々、ありがとうございます。

三組 竹下昌輝

今思うと高校生活は長いようでとても短いものでした。また、その中で私

はやりたいことをやらせてもらい、とても幸せでした。周りの友達や先生方には迷惑をかけたと思いますが、とても感謝しています。この高校三年間であった楽しいこと、辛いこと、又、出会いや別れ、全てが一生の宝物です。大田高校で過ごした三年間を誇りにし、これから自分の夢の実現に向けがんばっていききたいと思います。

五組 千賀ちひろ

私の高校三年間はとても充実していました。そのなかでも、部活動で過ごした二年間は特別なものとなりました。部員の頑張る姿にいつも励まされ、様々な視点でものを考えることができるようになり、大きく成長することができました。顧問の先生、コーチ、練習に付き合っ下さった皆様、保護者の皆様、部員のみんな、そして両親にとっても感謝しています。

旅立ちによせて

二組 三井健輔

私は県外の大学へ進学し、春から一人暮らしを始めます。大学へ行き、一人暮らしを始める人は多いと思います。が、その中の多くの人は一人暮らしに何かしらの不安を抱いていると思います。しかし、そのような時に高校生活で得た経験が役立つと思います。また、皆さんも高校生活を大切に過ごし、たくさんの経験を積んでおいてほしいと思います。

私も大学では高校での経験を生かし

頑張っていこうと思います。

四組 奥野 遙

私は情報について学ぶため大学へ進みます。今まで私と関わり支えてくれた人、直接的ではなくともたくさんのことを残し与えてくれた人、全ての人に感謝します。「未来を見て、点を結ぶことはできない。過去を振り返って点を結ぶだけだ。だから、いつかどうにかして点は結ばれると信じなければならぬ。」とジョブズ氏は言います。私も誰かに何かを残せるよう、未来の可能性を信じて精一杯頑張ります。

五組 横手 晶太

私は大田高校での三年間で積極的に行動することの大切さを学びました。生徒会やホームルーム委員の活動を積極的に行ったことでたくさんの体験をし色々なことを学ぶことができました。これからの大学生活では、今まで以上に受身では学べることが少ないと思うので、色々なことに積極的にとりくんでたくさんのことを学びたいと思います。

これから親元を離れ一人での生活が始まります。不安もありますが楽しみなこともたくさんあります。自分の夢に向かって一歩ずつ確実に進んでいきたいと思っています。

後輩へのメッセージ

一組 大草 三樹

大高での三年間の生活は本当に短い

ものでした。三年生になってからは一日の時間が半分になってしまったのかと思う程でした。一日が半分に感じるというのは誇張した表現ですが、新三年生には時間というものは恐ろしく早く過ぎるのだと強く意識してもらいたいです。そして、今、自分がすべき事を見極め、それに集中して取り組んで欲しいと思います。頑張ってください。

三組 原田 羽留奈

私は部活などで、うまくいかないことがあると、すぐに逃げ出したいと思っていました。そんな時いつも私は、「今逃げたら後で絶対に後悔する」と自分に言い聞かせてきました。その時は、つらくて大変で、嫌になるかもしれないけど、それを乗り越えれば、必ず良い結果につながると思うので、最後まで諦めずに、精一杯頑張ってください。

四組 松島 竜太

私は受験を勝ち抜くためには、行動力と精神力が必要だと思います。掲げた目標に対し、自分に足りない能力を会得するには自ら行動を起こさなければなりません。その過程は決して楽ではないので、弱い自分に負けない強い精神力が必要です。私の場合、部活や勉強を通してこれらを身につけることができました。皆さんも行動力と精神力を身につけ、受験を勝ち抜けるよう頑張ってください。

新たな 旅立ちに 向けて



一組

担任 景山 怜香
副担任 大野 修弘

実り多き人生

担任 景山 怜香

学生時代、友達とヨーロッパを旅行したことがあります。全くのノーブランチ。気ままに移動。なんと無謀な旅行だったか！しかし、その分多くの楽しみがありました。ふらりと立ち寄った教会の最上階からの素晴らしい眺めや、人で賑わう蚤の市、地元のレストランで味わった素朴な郷土料理……。私はこのような、様々な人やものとの思わぬ出会いこそが旅の楽しみであると感じています。同じことが、私たちの人生にも当てはまるように思います。計画通り



に進む人生があるなら、それはある意味では楽かもしれません。しかし、一方で面白味に欠けますし、実際、計画通りの人生などないでしょう。人生はやはり、変化に富み、面白い方がいい。私は、人生を豊かにするものに「様々な出会い」があると思います。そして、それを楽しむ「心の余裕」があればなお良いですね。皆さんはこれから社会に旅立ちとうとしています。皆さんの出会いを経験し、考え、悩み、喜び、大きく成長して欲しいと思います。卒業おめでとう。皆さんの人生が実り多き、豊かなものになりますように。

二組

担任 坂井 樹史
副担任 竹野内 力

出藍の誉

担任 坂井 樹史

年が明けて間もなく、センター試験が間近に迫った頃。夕食時、小学校で「いろは歌留多」なるものを楽しんだ次男の要求は「諺や格言の質問して。」耳に入らない風を装っておしゃべりに興じる私以外の大人二人。仕方なく私が相手をする。(私)「犬も歩けば……」(次男)「棒に当たる」といった具合にである。(私)「石橋を……」(次男)「叩いて渡る」、(私)「腐っても……」(次男)「鯛」。正解が



続く。と難しい質問をしなくなるのが教員の習性。(私)「李下に冠を……」(次男)「知らん」。意味の説明をせねばならず教員の習性を呪う。しかし、呪えども繰り返してこそその習性。つい、口を突いて出たのは「出藍の……」(次男)「弟子や生徒が師や教師より立派になること」。ここで、口を挟みたくて仕方なかった長男が参入してくる。「じゃあ僕が父ちゃんより立派になっても使えるん？」さらに次の一言。「けっこう簡単そう」……。長男よ、慧眼である。対象を私に限定したならば「出藍の誉」はいたって容易いことに相違あるまい。そう遠くないいつの日にか、私など比にならぬほど立派になった卒業生の皆さんに会うことを楽しみにしている。もうすでにそうだ、と言われても反論はない。卒業おめでとう。

五組

担任 山田 桂
副担任 福田 秀孝

求める人物像

担任 山田 桂

某有名電機メーカーはホームページに「採用情報」の「求める人物像」を次のようにまとめている。

「しなやか」……既存概念にとらわれず、常に新しい発想を取り入れていける適応力

「スマート」……現状を的確に分析・整理し、変化を先取りするための論理的戦略を立て、周囲の理解と納得を得て協創できるコミュニケーション能力

三組

担任 太田 純代
副担任 桑原 健二

胎教によい学年

担任 太田 純代

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！私が、担任団の仲間入りしてから早一年。もう卒業なのかと感慨深い気持ちです。思い出すのは、二年生の始業式の日。HRで自己紹介をしたら、皆が嬉しそうに拍手してくれたのが、とても嬉しかった！「この人達のために、一所懸命頑張ろう。」と思いました。この学年の魅力は、とても「気持ちのよい」集団であることだと私は思っています。



それは、日常的に友人を気遣う姿や励ます姿、合唱コンクールの練習、体育祭での応援、学習への取り組みにも表れていました。そういうところがとても好きだなあと思っています。そして、私自身、今年は皆さんにとても助けられた一年になりました。皆に迷惑をかけることはいかに！と思いつつやってきたつもりですが、本当にたくさん気遣ってくれてありがとう。お腹なでなで、赤ちゃんも喜んでいきます。人生において、仕事をしながら赤ちゃんを育てるという期間はあると思いますが、赤ちゃんが触れ合う？学年が皆さんで良かったなと思います。皆さん、これからも皆さんにとって「気持ちのよい」人生を歩んでいってください。期待しています。

四組

担任 阪本 美樹
副担任 國本由利子

春の変化

担任 阪本 美樹

春は変化が多い季節です。中でも卒業生の皆さんに起こる変化は特に大きなものになるでしょう。正直なところ、私はこの春の変化があまり得意ではありません。ワクワクよりも、ドキドキの方が強く、その緊張感が苦手です。しかし、その緊張感と戦うのは、最初のほんの一瞬なので我慢します。そうすると、その先はワクワクの方が強くなるので、やはり春の変化は悪いものではないと思っています。皆さんの多くが、



この春から、新しい場所、新しい人と出会い新しい知識と遭遇していく。春の変化に消極的な私でさえ、皆さんのこれからを想像しただけでワクワクしてきました。そして、春の変化とは、様々なものとの出会いなのだと思えます。春に限らず、人生は出会いの連続だと思っています。その多くの出会いを、自分の人生のプラスにしたぶん、自分の人生のアップしていくと勝手に考えています。また「出会い」をプラスにする力。人間性・人柄「かな？とも。そうであれば、皆さんならこれから迎える春の出会いを、素敵な人生への第一歩にきつとしていくのでしょうか。やはり春は悪くありませんね。ご卒業おめでとうございます。



「タフ」：自らを啓発し、新たな成果を創造できるタフな心身と基礎力、応用力
なんだかすいぶんレベルの高い話のように感じるのだが、例えば「スマート」とは、かなり乱暴に要約してしまえば、「空気を読んで、自分勝手はダメ！」という具合に、人として当たり前、あるいはそつあたりという内容だと気づく。実はそういう当たり前のことを難しいし、だからこそ大切なのだと思ふ。
大田高校では全教職員が様々な場面で、みんなにこれらの力をつけさせようとしてきたし、みんなはそれに応えようと一生懸命に頑張った三年間であった（と私は信じてる）。
いよいよ卒業です。これから「しなやか」で「スマート」、そして「タフ」な人間を目指して、それぞれの新しい舞台で頑張ってください。卒業おめでとう。

【学校評価アンケートの結果について】

本年度の学校評価アンケートの結果をお知らせします。「学校評価」の制度は、本年度の本校の学校活動を、生徒・保護者・教職が様々な項目で評価し、その結果を次年度の目標設定や改善策に生かして、より充実した教育活動の実践につなげていくものです。

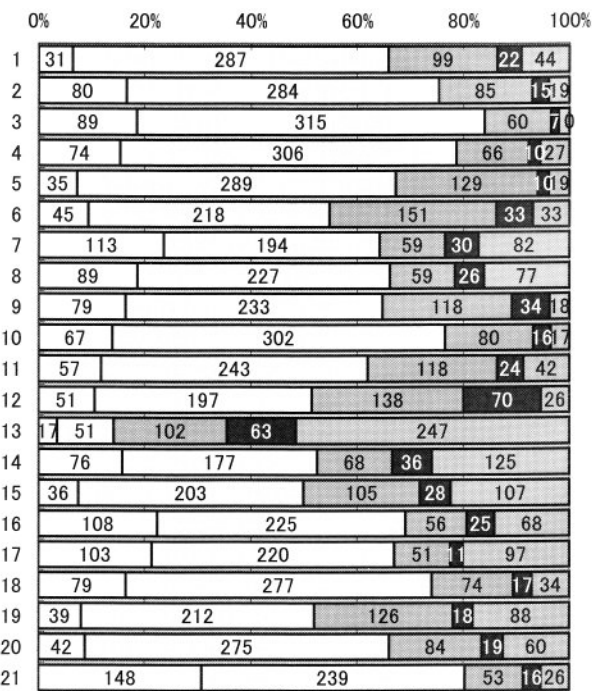
今後は、このアンケート結果をふまえて、各担当分掌、学年会で反省と改善策を検討し、2月下旬の学校関係者評価委員会の討議を経て、3月中に取りまとめて公表いたします。

保護者の皆様にはアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

平成23年度 大田高校に関する生徒によるアンケート（全体：484名回答）

□4:とてもそう思う □3:だいたいそう思う ■2:あまりそう思わない ■1:全くそう思わない □0:わからない

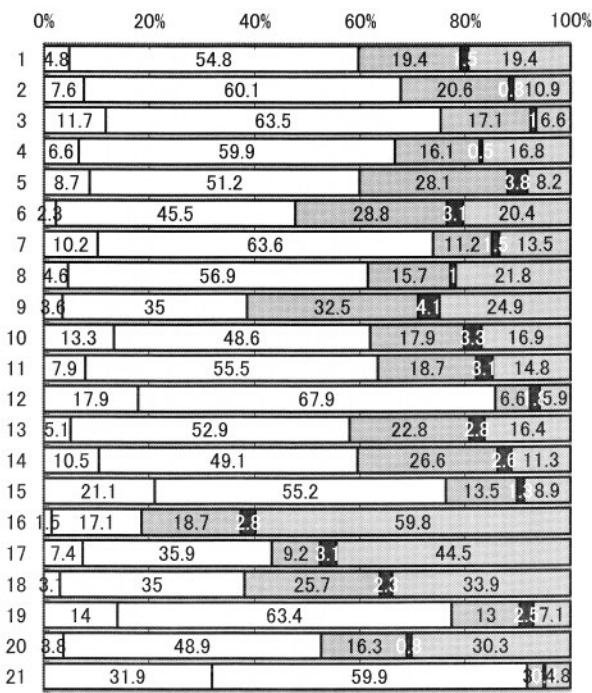
	評価項目	平均
1	本校は、今年度の重点目標を分かりやすく伝えていきますか。	2.7
2	本校には、特色や良さがあると思われますか。	2.9
3	本校には、学習にきちんと取り組める施設・設備が整えられていますか。	3
4	本校は、生徒の安全確保を適切に行っていると思いますか。	3.0
5	授業（内容・進度など）に満足していますか。	2.8
6	授業が分からないとき、十分なケアをしてもらっていると感じますか。	2.6
7	部活動の現在の活動内容に満足していますか。	3
8	部活動の活動時間は適切であると思いますか。	2.9
9	服装・頭髪等、本校の生活指導はきちんと指導がされていると思いますか。	2.8
10	進路講演会や学年集会等を通して、進路に関する情報は十分得られましたか。	2.9
11	キャリア教育（進路学習）を通して、自分の生き方について考えることができましたか。	2.8
12	土曜補習（全学年対象）や放課後補習（3年対象）は有意義ですか。	2.5
13	スクールカウンセラー事業は活用しやすいですか。（案内・実際の相談等）	2.1
14	保健室では適切に対応してもらっていると思いますか。	2.8
15	健康・環境に関する必要な情報が得られていますか。	2.7
16	図書室は利用しやすいですか。	3
17	図書館には皆さんの読書意欲を喚起するような本が入っていますか。	3.1
18	学校は面談等を通して生徒理解や個に応じた進路支援に努めていますか。	2.9
19	学校は生徒の学校行事やボランティア活動等への積極的な参加を支援していますか。	2.7
20	学校は皆さんの学習習慣や生活習慣の確立のために努力していると思いますか。	2.8
21	総合的に見て、本校に入学して良かったと思いますか。	3.1



平成23年度 大田高校に関する保護者によるアンケート（全体：394名回答）

□4:とてもそう思う □3:だいたいそう思う ■2:あまりそう思わない ■1:全くそう思わない □0:わからない

	評価項目	平均
1	本校は、今年の重点目標を分かりやすく伝えていきますか。	2.8
2	本校には、特色や良さがあると思われますか。	2.8
3	本校には、学習にきちんと取り組める施設・設備が整えられていると思われますか。	2.9
4	本校は、生徒の安全確保を適切に行っていると思われますか。	2.9
5	何か心配なことがあれば、学校に気軽に相談することができますか。	2.7
6	PTA総会、授業公開週間など保護者対象の行事は、有意義なものになっていますか。	2.6
7	「泰山木」・大田高校ホームページは、学校の様子をよく伝えていきますか。	3
8	本校の授業（内容・進度など）に満足しておられますか。	2.8
9	授業が分からないとき、十分なケアをしてもらっていると感じられますか。	2.5
10	部活動の現在の活動内容に満足しておられますか。	2.9
11	部活動の活動時間は、適切であると思われますか。	2.8
12	服装・頭髪等本校の生活指導はきちんと指導がなされていると思われますか。	3.1
13	保護者進路説明会やホームページ等を通じて、進路に関する情報は得られましたか。	2.7
14	キャリア教育（進路学習）を通して、お子様が自分の将来について考えるようになりましたか。	2.8
15	土曜日補習（全学年対象）や放課後補習（3年対象）は、お子様にとって有意義ですか。	3.1
16	スクールカウンセラー事業は活用しやすいですか。（案内・問い合わせへの対応・実際の相談等）	2.4
17	保健室の生徒への対応は適切だと思われますか。	2.9
18	健康・環境に関する必要な情報が得られていますか。	2.6
19	本校は、面談等を通して生徒理解や個に応じた進路支援に努めていますか。	3
20	本校は、生徒の学校行事やボランティア活動等への積極的な参加を支援していますか。	2.8
21	総合的に見て、お子様を本校に入学させて良かったと思われますか。	3.3



平成23年度 学校評価（教職員による自己評価）（41名回答）

□ 4 十分できている □ 3 だいたいできている ■ 2 やや不十分である ■ 1 不十分である □ 0 わからない

重点目標			評価項目		平均	0% 20% 40% 60% 80% 100%									
学校運営全般	①文武両道の追求	生徒が自ら考え・表現する授業づくりができたか	2.7	1	8.8	47.1	38.2	5.9							
		生徒の授業評価や授業公開によって、授業の改善ができたか	2.8	2	8.8	52.9	26.5	11.8							
	②社会性、帰属意識、連帯感の涵養	気軽に相談できる環境作りが推進できたか	3	3	11.4	77.1	8.6	2.9							
		部活動の活性化を目指した校内体制づくりができたか	2.7	4	11.4	51.4	31.4	2.9							
	③人権を尊重する生活態度の育成	早期のキャリア教育による生徒の進路意識の向上を図ることができたか	2.8	5	9.1	51.5	21.2	3	15.2						
		タイムリーな進路情報の積極的な提供・共有化によって進路指導の充実を図ることができたか	2.9	6	5.9	73.5	20.6	0							
	④積極的な生徒募集と広報活動	人権問題を見抜き、それを解決する力が育成できたか	2.9	7	8.8	64.7	17.6	8.8							
		爽やかな挨拶と身だしなみを奨励することができたか	3.1	8	14.7	76.5	8.8	0							
	⑤教育環境の整備と安全教育の推進	ホームページを充実させることができたか	2.7	9	3	51.5	21.2	3	21.2						
		講演会や各種説明会など様々な機会を通じてのタイムリーな情報の発信ができたか	2.9	10	3	78.8	9.1	9.1							
総務部	①学校組織の有機的な運用	分掌、学年会との調整をはかり、学校行事の円滑な運営を行ったか	3.2	11	26.5	70.6	2.9								
		会議内容の共通理解とともに、適切な進行により時間短縮できたか	3.2	12	31.4	57.1	11.4	0							
		「泰山木」「大田高校HP」「授業公開週間」で、情報発信に努めたか	3.2	13	31.4	57.1	2.2	5.7							
	②保護者・地域社会への広報と連携	PTA評議委員会・PTA総会等で、保護者との連携ができたか	3.3	14	27.3	60.6	12.1								
		研究授業・公開授業の実施による学習指導の研究と共有化を図ったか	2.8	15	8.6	57.1	25.7	8.6							
教務部	①授業内容の充実と自主的な学習態度の育成と学力の向上	進路指導部・教科会・学年会と連携し、学習指導の体制を整えたか	2.7	16	8.8	44.1	23.5	5.9	17.6						
		授業時間の確保に努めたか	3.3	17	29.4	58.8	2.9	8.8							
		新教育課程の申請・変更手続きと運用上の整備・研究に努めたか	3	18	16.7	50	13.9	2.8	16.7						
	②新教育課程の編成	中高連絡会等の会議や進路説明会、オープンスクールを通して、生徒募集に努めたか	3	19	14.7	61.8	8.8	2.9	11.8						
		③中高の連携と生徒募集													
生徒指導部	①規律ある生活態度の育成	頭髪・服装等の指導が徹底できたか	3	20	11.8	76.5	11.8	0							
		校門指導や服装頭髪検査が徹底できたか	3.1	21	11.8	79.4	5.9	2.9							
	②安全で安心な学校生活の保障	交通マナーを遵守させることができたか	2.8	22	8.6	57.1	25.7	8.6							
		地域や他機関と連携し、生徒の安全を図ったか	2.9	23	11.8	58.8	14.7	2.9	11.8						
	③部活動・ボランティア・生徒会活動等の充実	部活動を積極的に指導したか	3	24	14.3	71.4	8.6	2.9							
		大高祭成功のために積極的に指導したか	3.2	25	29.4	64.7	5.9	0							
進路指導部	①進路実現のために必要な学力保障	生徒に模擬試験前後における準備・見直しを徹底させたか	2.8	26	11.8	44.1	26.5	17.6							
		効果的な補習の編成により受験に対応できる学力保障を図ったか	3	27	18.2	63.6	3	6.1	9.1						
		他校との連携を深め、進路情報を共有し、指導方法の改善・工夫を図ったか	3	28	6.1	66.7	3	24.2							
		進路講演会や説明会を計画的に実施し、タイムリーな情報の発信を図ったか	3.1	29	20	71.4	5.7	2.9							
	②生徒の進路決定のために必要な進路情報の提供	教職員の進路指導に関する研修への支援に努めたか	3	30	11.8	61.8	11.8	14.7							
		ホームページを利用し、生徒や保護者への進路情報の提供に努めたか	2.9	31	12.1	39.4	18.2	30.3							
		総合的な学習の時間やLHRを活用した進路学習を充実させ、低学年からの進路意識の向上を図ったか	2.9	32	11.4	65.7	17.1	5.7							

平成23年度 学校評価（教職員による自己評価）（41名回答）

□4 十分できている □3 だいたいできている ■2 やや不十分である ■1 不十分である □0 わからない

重点目標	評価項目	平均	0%	20%	40%	60%	80%	100%
保健 教育 相談部	①心身の健康の保持・増進	各種検診や健康観察、面談などを通し、生徒への心身の健康状態把握に努めたか	3.3	33	30.3	63.6	31.3	
		講演・保健だよりなどにより心身の健康の増進に関する啓発はできたか	3	34	11.4	77.1	11.4	0
		生徒保健委員会の活動は適当だったか	2.9	35	6.1	48.5	12.1	33.3
	②生活環境の維持・向上	清掃区域・分担・用具の点検・補充は適当だったか	3.1	36	20.6	64.7	8.8	2.2
	③教育相談事業の推進	学年部・担任・スクールカウンセラーとの連携がとれ、生徒・保護者への効果的支援ができたか	3.2	37	17.6	55.9	2.0	23.5
		環境・健康に関する必要な情報を生徒・保護者に知らせよう努めたか	3.1	38	9.1	66.7		24.2
体育 部	①体育的行事のスムーズな運営	体育的行事がスムーズに行えたか	3.4	39	35.3	64.7		0
	②式典のスムーズな運営	式典がスムーズに行えたか	3.4	40	38.2	61.8		0
図書 視聴 覚部	①生徒が活用しやすい図書館の構築	館内の環境を整備し、生徒の図書館利用を推進したか	3.3	41	25.7	68.6		5.7
		生徒の読書意欲を喚起できたか	3.2	42	26.5	58.8	2.2	8.8
		図書委員会の主体的活動を支援したか	3.3	43	24.2	57.6		18.2
	②視聴覚機材のスムーズな使用	機材の管理・点検に努め、授業・行事等において機材が支障なく使用できたか	3	44	5.7	62.9	8.6	22.9
寮 務 部	①自主的・自立的な集団生活	基本的生活習慣を身につけさせることができたか	2.9	45	9.1	63.6	18.2	9.1
		規則・規律を遵守して生活できるよう支援したか	3	46	14.7	64.7	14.7	5.9
	②コミュニケーション豊かな雰囲気	教職員と寮生、または寮生同士の関係づくりを行ったか	3	47	5.9	61.8	8.8	23.5
	③意欲的な学習への支援	自習時間の巡視や学習指導を積極的に行ったか	3	48	15.2	54.5	15.2	15.2
	④健康で明るい生活ができる環境整備	衛生管理を徹底し、食中毒などの事故を防ぐことができたか	3.2	49	15.2	66.7		18.2
		清掃活動等で自主的な環境整備に努めさせることができたか	2.9	50	5.9	58.8	17.6	17.6
人権 同 和 教 育 部	①人権・同和教育の研究指定校事業(生徒)の推進	LHR指導や講演会を通じて、生徒の人権意識を高めていくための取り組みができたか	3.2	51	26.5	67.6		5.9
	②人権・同和教育の研究指定校事業(教職員)の推進	LHR(授業実施・授業参観)や教職員研修(ワークシート演習・講演会)等を通じて、教職員が全員参加で人権意識を高めていくための取り組みができたか	3.2	52	26.5	67.6		5.9
		授業料減免・奨学金の適切な情報を提供し、生徒個々の教育権に配慮したか	3.1	53	17.6	61.8	8.8	11.8
1 年 学 年 会	①基本的生活習慣と自立的生活態度の育成	挨拶・時間厳守などの基本的生活習慣の育成に努めたか	2.9	54	8.8	58.8	8.8	20.6
	②学習習慣の確立の支援	日常的な学習習慣や自発的な学習意欲の向上に取り組んだか	3	55	11.8	67.6	5.9	11.8
	③進路意識の高揚の支援	個人面談等を通じて生徒理解や進路支援に努めたか	3.2	56	12.1	45.5	31	39.4
	④豊かな人間関係の確立の支援	諸活動を通し、クラスの連帯感や豊かな人間関係の育成に努めたか	3.1	57	12.1	57.6	31	27.3
2 年 学 年 会	①自立的生活習慣の確立と自他共に尊重できる態度育成への支援	挨拶や服装、時間厳守などの基本的生活習慣の確立や、自他の生命や人権尊重の態度の育成に努めたか	2.7	58	58.8		26.5	14.7
	②学習習慣の確立と学力の向上への支援	日常的な学習習慣の確立や個々に応じた学習支援を行ったか	2.7	59	2.9	55.9	29.4	11.8
	③生徒一人一人に応じた進路支援	生徒面談や学年集会、学年通信によって進路意識の啓発や進路支援を行ったか	2.9	60	51.5	31	45.5	
3 年 学 年 会	①学力向上と進路実現の支援	挨拶の励行につとめさせたか	3	61	9.1	72.7	6.1	9.1
		遅刻・欠席の防止につとめたか	3.1	62	9.1	72.7	31	15.2
	②将来考えた進路目標の実現	面談を積極的に行い、目標実現に向かう支援を行ったか	3.4	63	27.3	45.5		27.3
	③人権尊重に基づく調和のとれた心身の発達	学校行事・生徒会行事・HR活動・ボランティア活動等への積極的な取り組みを奨励・支援したか	3.2	64	18.2	66.7		15.2

注)アンケート・自己評価の平均値は、4段階評価のものです

健闘光る!!

(12月・2月の部活動)

文化 部

▽美術部
第44回島根県高校美術展
絵画の部 11点出品7点入選
デザイン部 6点出品4点入選
▽高文連石見地区彫刻コンクール入選7点

▽文芸部
島根県高等学校文化連盟文芸専門部県大会
小説の部 優秀作2位
山崎英和：全国総文祭(富山)出場
佳作 島田智幸

短歌の部
優秀作2位の1
谷本匠：全国総文祭(富山)出場
優良作 山田愛佳、月森未久、渡邊孝太朗、新和也、津山空瑠美、内藤悠

佳作 西村理紗子、松田健太郎、小谷麻祐子、井戸頭子、櫻本あかね、吉田晃大、宮原聡大、津山空瑠美

俳句の部
優秀作2位の2 郷原七緒
優良作 菊尾輝、松本奈美、尾崎公志、長船敬太、川島万優、菅原希有花、田中貴己、生越成昭、霊山明日香

佳作 川島万優、井上愛純、水本和香奈、和田恵太、長尾景太

詩の部
優良作 道下和希
文芸誌の部 最優秀瓶塚61号 部長 内藤響

▽高文連新聞コンクール 奨励賞
第13回高校生文芸道場中国ブロック大会(岡山大会)
散文の部 一次選考通過 内藤響

▽囲碁・将棋部
中国地区高等学校将棋選手権大会
坂根和貴1勝4敗：26/32位、島田夢有人1勝4敗：29/32位、山田智都3勝2敗：4/16位、岩石静果3勝2敗：3/16位、藤原多真栄3勝2敗：8/16位

▽高文連新聞コンクール 奨励賞
第13回高校生文芸道場中国ブロック大会(岡山大会)
散文の部 一次選考通過 内藤響

▽高文連新聞コンクール 奨励賞
第13回高校生文芸道場中国ブロック大会(岡山大会)
散文の部 一次選考通過 内藤響

▽高文連新聞コンクール 奨励賞
第13回高校生文芸道場中国ブロック大会(岡山大会)
散文の部 一次選考通過 内藤響

▽高文連新聞コンクール 奨励賞
第13回高校生文芸道場中国ブロック大会(岡山大会)
散文の部 一次選考通過 内藤響

▽高文連新聞コンクール 奨励賞
第13回高校生文芸道場中国ブロック大会(岡山大会)
散文の部 一次選考通過 内藤響

運動 部

▽サッカー部
島根県高等学校サッカー新人大会
1回戦 大田10-1江津、大田11-1松江商業(PK2-4)

▽剣道部
島根県高等学校剣道新人戦
男子団体戦 1回戦大田1-2飯南
女子団体戦 1回戦大田0-4大社

▽ソフトテニス部
島根県高等学校ソフトテニス選抜インドア選手権大会
1回戦 土山・中尾4-2江津
2回戦 土山・中尾0-4松江商：ベスト16

▽柔道部
島根県高等学校柔道選手権大会
▽男子バスケ部
島根県高等学校バスケボール新人大会
大田57-89三刀屋

▽石見地区新人バスケボール大会
1回戦62-60明誠、2回戦37-70浜田

▽女子バスケ部
島根県高等学校バスケボール新人大会
1回戦 大田・島根中央・瀬摩44-69三刀屋

▽男子バレー部
島根県高等学校バレーボール新人大会
予選リーグ
大田・益田1-2隠岐島前
大田・益田0-2松江工業 予選敗退

▽女子バレー部
島根県高等学校バレーボール新人大会
予選リーグ
大田2-0横田、大田0-2松江南 予選敗退

▽弓道部
中国高等学校弓道新人大会
女子団体 予選落ち
男子個人 渡辺貴文 8射5中
松村大輔 8射5中
山根千春 8射4中

▽女子個人
山根千春 8射4中

▽高文連テニス部学年別大会
高文連テニス部学年別大会
杉本2回戦 大田11-6安来
杉本2回戦 大田4-6松江北
柳井2回戦 大田0-6松江南
霊山1回戦 大田4-6浜田

▽中国高等学校新人テニス大会
中国高等学校新人テニス大会
1回戦 松山11-6山口・慶進
高体連テニス学年別大会
橋口・ベスト16
大谷・竹下：ベスト32
安藤：ベスト16、松山：ベスト32

▽島根県高等学校青少年赤十字メンバー研究発表大会 最優秀賞
▽島根県高文連自然科学部門発表会 優良賞
口頭発表の部 優良賞

人権・同和教育「PTA活動」 育成事業視察研修に参加して

片山 優子

人権・同和教育研究 指定校の実践を終えて

大野 修弘

国立療養所長島愛生園はらい予防法(一九三二)や無らい県運動の結果、多くのハンセン病(らい病)患者が入所せられた施設です。この病気は感染力が非常に弱く、普通の生活では人から人へ感染しませんが、患者は周りから偏見を受け、差別されてきました。そして特効薬が開発されたにも関わらず、終身隔離され続けられました。「療養所」という名ばかりの強制隔離施設での劣悪な栄養状態と過酷な強制労働を強いられ、また、施設内で結婚する場合は断種・墮胎も強制的に行われていました。このような状況は、一九九六年らい予防法が廃止されるまで続きました。

1氏は島根県出身で十二歳(S十二年)のときに収容させられたそうです。当初はさみしい気持ちもあったが、「病気を治したい、生きていくためにはどうしたらいいのかわからない」という気持ちでがんばられたそうです。そして、一番の励みは、年に一度父親が面会に来てくれることだったそうです。親から名前も変えさせられ、面会もない患者がほとんどの中、父親が近所の目も顧みず面会に来てくれることが「人は治らんでも、自分は治る」という強い思いにつながったのだと思います。「今、やっと人間らしい生活ができる」という言葉が印象的でした。

私たちが気遣いながら、つらく、衝撃的な事実を話してくださった1氏の思いを無駄にしないためにも私たちはそこから目を背けるのではなく、事実を受けとめ、しっかりと知識を学び、理解する努力をし続けることが大切なのではないかと感じました。

本校は、平成二十二年・二十三年度に、島根県の人権・同和教育研究指定校となり、「自他の生命・人権を尊重する生徒の育成」人権問題を見抜く力を高め、主体的に問題を解決しようとする態度を育成する」という主題をきっかけ、さまざまな取り組みを行いました。具体的には、生徒や教職員にアンケート調査をして課題を発見したり、それに対してどう取り組むか教職員研修会で話し合ったり、また、人権・同和教育に関するホームルーム活動(LHR)や全校生を対象にした講演会などを行ないました。

同和問題については、その解決にむけて様々な取り組みがなされてきましたが、今日でも、重要な人権課題の一つです。昨年の十月には、この問題についての認識を深めることをねらいとして、中倉茂樹さん(徳島県人権啓発青少年団体連絡協議会「止揚の会」事務局)を招き、講演会を開きました。中倉さんは、自ら結婚差別をうけてそれと闘った体験をもとに、人とのつながりを大切にすることを熱く語られ、生徒のみんなに大きな感動を与えました。あらためて差別の理不尽さを知り、中倉さんの前向きで明るい人柄にもひかれながら、たくさん生徒たちが、差別をしない・させない生き方を自分のものにしたい、という思いをあらたにしました。

この二年間の実践をふまえ、今後本校の特徴を生かした取り組みを行なっていきたいと思っています。

学園スナツプ



保育 実習



寒稽古

